



看家広報

●人々の暮らしと人生を応援!

はなえみ

2026
5 隔月刊
月号
NO.168

公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会

◆ Special Interview

短大卒の仕事から学び続けて、 仕事の舞台は世界に広がった。



人は学ぶ心・挑戦する心があれば人生の最後まで成長していける。

国連ウイメン日本協会前理事長 橋本 ヒロ子さん…1

●World Now フランス…6

フランスZ世代が愛好する
日本語の新・人生哲学

●MOVEMENT…7・8

7年度紹介業運営セミナーのメインテーマは、
「家政婦(夫)のための補償制度の積極的な活用」

●INFORMATION…9

令和7年度 寄付者の皆様

花知識◆カーネーション

●フリル状の花びらと独特な香りが特徴。

愛や献身の象徴とされ、ギリシャ神話やキリスト教の伝承にも登場する花で、古代ギリシャ時代から観賞用として親しまれてきた。母の日の花としてよく知られており、贈り物や室内装飾に最適な花。亡き母を偲ぶ場合、白のカーネーションが使われる。鉢植え、地植えに加えて、切り花やブーケ等、幅広くいろんな場面で活用されている。

開花時期は主に春～初夏(4月～7月)と秋～冬(9～11月)で、夏の高温期を避けて、日当たりの良い場所で育てると花付きが良くなり、春と秋に楽しめる。

●花ことば:「無垢で深い愛」

赤は「深い愛」「母への愛」、ピンクは「感謝」「やさしさ」「おもいやり」、白は「純粋な愛」「きよらかさ」、黄は「明るく元気」、紫は「気品」「尊敬」

●植物分類:ナデシコ科ナデシコ属 多年草

●原産地:南ヨーロッパおよび西アジアの地中海沿岸



短大卒の仕事から学び続けて、 仕事の舞台は世界に広がった。

人は学ぶ心・挑戦する心があれば人生の最後まで成長していける。

国連ウイメン日本協会前理事長

橋本ヒロ子さん

広島大学の図書館職員（公務員中級）からスタートし、海外研修に参加。上級公務員試験に挑戦し合格すると、仕事の世界がどんどん拡大。国連女性教育会館の国際交流担当課長から、タイのバンコクで国連職員として国際経験を積み、日本に帰国して十文字大学の教授を担当し、中学と高校の校長も経験。今年3月まで国連ウイメン日本協会理事長として活躍する橋本さんに、目覚ましいキャリアの背景にどんなチャンスと努力があったのか？を聞いた。

——最初短大で学ばれ、就職後どんどん活躍の場を拡大していかれましたね。そのプロセスをお聞かせください。

京都府立大学の女子短大の国語科で学んでいたころ、卒業して国家公務員が良いだろうということで講習に参加し、国立大学図書館職の国家公務員試験中級に合格。広島大学の図書館に就職をしました。就職をして管理職に早くなれるなら大卒の試験も受けたほうが良いと思って、上級公務員試験を受けたら受かりました。上級職になるとカリフォルニア大学のバークレー校で、図書館司書のための研修プログラムを受講できるということを伺い、田舎の両親に相談して娘を預かってもらい、1年間バークレー校で研修を受けました。

学んでいくと次の仕事の 世界が広がってきた

帰ってきて、やはり国際的には修士課程も取ったほうが良いと思い、「もう一度自費で行きます」と部



長に伝えたら、それなら出張にしていってあげようと言ってくださって、滞在費等も出してもらえました。そのころ、文部省（現在の文部科学省）で新しく設立した国立婦人教育会館（現在の国立女性教育会館）で、情報関係の専門職が必要になっていました。広島大学の事務局長が「それならバークレー校に行って、ライブラリーサイエンスを専攻し学んでいる図書館職員が広島大学にいる」と伝えてくださり、帰国すると教育会館の情報課専門職員として仕事をするようになりました。そこで帰国してからは、母に預かってもらっていた娘を引き取って、教育会館のある嵐山に移住しました。

当初は情報交流課というところで図書館の専門職

▶橋本ヒロ子(はしもと・ひろこ)プロフィール:

1946年山口県生まれ。1967年京都府立大学短期大学部卒業後、広島大学附属図書館勤務。1982年カリフォルニア大学修士課程修了。1986年国立婦人教育会館情報交流課長。1991-1996年国連事務局開発と女性課社会問題担当官(北京女性会議準備のためのアジア太平洋地域会議を開催)。1996年-2015年十文字学園女子大学教授、副学長。2015年同大学名誉教授。2011-2017年国連女性の地位委員会日本代表。2022-2026年国連ウイメン日本協会理事長、2018年男女共同参画社会づくり総理大臣表彰受賞。2024年外務大臣表彰受賞。



員の仕事でしたが、教育会館は、国際会議を行うことが多く、国際会議と交流に関わり、課長として情報交流課の仕事をするようになっていました。アジア太平洋地域の国際会議の時に、国連で働いていた日本人職員の方から国連に来ないかと声をかけられ、上司も女性の活躍を推進できるということで応援してくださいました。

タイの国連職員として ネットワークづくりを担当

—学んでいくことで、チャンスが次々に訪れるようになったんですね。

私もほんとうにそう思います。皆さんから私の将来について応援していただきました。その頃 JICA で活躍し、国連ウイメン日本協会の理事でもあった友人の元 ESCAP 職員の田中由美子さんから「バンコクにある ESCAP はアジア太平洋地域の国連の組織だからそこで働きませんか」と誘われ、私は、中学生だった娘を伴い、タイのバンコクで5年間働きました。最初は3年と言われていたんですが、3年だとまとまった仕事ができないため日本政府に派遣期間を伸ばしてもらいました。

タイで情報ネットワークを作るというのが私の仕事でしたから太平洋地域の各国に行ったり、中東に行ったりとても勉強になりました。また5年目の1995年には、国連が開催した北京会議*が行われ、バンコクからのスタッフとして関わり、とても勉強になりました。

—積極的に新たなチャンスに乗ってみようという冒険心がおありだったんですね。

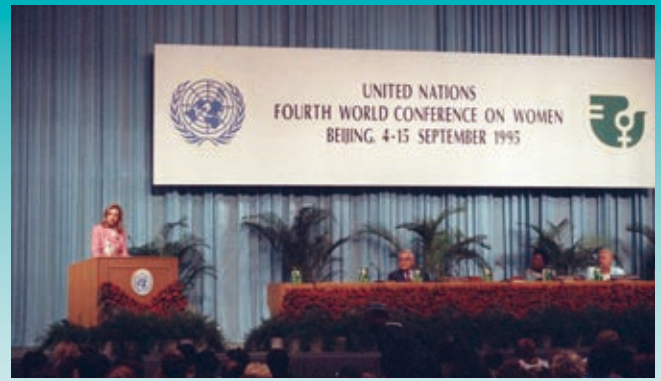
翌年日本に帰国しましたら十文字大学女子学園の方から私の知り合いの人を通して専任教員として来てほしいというお話がありました。文科省の職員でしたから通常は UNESCO から異動するものなのです

が、文科省ルートではなく、私は直接のルートで、十文字学園女子大学の「女性と情報」という科目などを教えることになりました。

国連の「女性の地位委員会」の 仕事から日本の遅れた状況を確認

国連が女性関係の専門機関を持ったのはほんとうに2000年過ぎてからです。その機関の中に「国連女性の地位委員会」が1946年にルーズベルト大統領夫人などの提案で設置され、毎年3月に2週間会議をして世界の女性の地位向上のための議論をしています。ちなみに私は、1946年に生まれました。その委員会の日本代表をされていた縫田先生と有馬先生との交流があったことから、2011年から2017年まで、十文字大学の仕事をしながら、その女性の地位委員会の日本代表もさせていただきました。

2017年に、十文字大学から校長先生が入院されたので、十文字中高の校長をやってほしいと言われ、それまで大学生をずっと教えていたんですが、校長という仕事をしながら中高生のこれからを考えていくというのは良いことかもしれないと思って担当させていただきました。ただ校長の仕事は卒業式など、3月にすごく沢山の仕事があります。国連の委員会のほうも3月に2週間会議があるので、1回卒業式に出られないから録画でやってもらったんですが保護者に不評だったんですね。そこでもう女性の地位委員会



出典：U.S. National Archives and Records Administration, パブリック・ドメイン、<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=79917068>による

の方をやめて、校長職に集中しましたが、やっぱりずっと校長を担当するには体力が必要でした。中高の教員の経験がある人が担当したほうがいいと思い、75歳になった時に校長を辞めさせていただきました。

母の姿から女性も道を拓き 挑戦していけることを学んだ

——女性の活躍できる環境が少ない時代に、とても恵まれたキャリアを重ねてこられましたね。最初から専業主婦ではなくて職業婦人の道を選ばれたのですか？

専業主婦という考えはありませんでした。というのは、うちの母もずっと農業をやりながら、婦人会の会長とか社会的な活動をしていました。

——政治家を目指そうとされたことはなかったんですか？

ちらっと言われたこともあります。娘からお母さん絶対立候補するのはだめとよと言われていましたから。政治家より、私にできるボランティア活動を中心に、社会貢献をしていこうと思います。

——お嬢さんもお母さんの背中を見てこられたのでしょうかね。

娘も自分のやりたいことをやっています。九州大学の文学部で学んだ後、神戸大学の大学院で修士号をとり、その次にロンドン大学大学院の経営学部で学びましたが、帰国して今やっているのは鍼灸師なんです。自分の体調が悪かったときに鍼灸で治癒したからです。日本でもアメリカの大学や会社のスタッフをして働いていましたが、自分に合わないようでした。もちろん留学していますから、外国人のお客様や患者さんを治療できるので、幅広い方々の健康に貢献しています。私も体調面で本当に助かっていますよ。

——とにかく自分に合う仕事で働き続けようというのは、やはりお母様の影響ですね。

そうかもしれないですね。私も母の働き方を見て育ちました。母は例えば農産物ができるとその近辺では売れないので大きな荷物を背負ってバスに乗り大竹市に行って、小売店のお店と契約をしてくるような人でした。壁があれば行動し、頑張って打開していく人だったと思います。

日本はまだまだ女性の可能性を 育て活かすことが必要

——個人事業主のような挑戦をなさるバイタリティーにあふれたお母様だったんですね。女性はこんなに力があるのだから、他の女性も力が発揮できるよう応援しようと思われたでしょうね。

現在もまだまだ女性には壁があると思います。例えば国家公務員は公務員試験に受からないとなれないですが、中には公務員試験を経ずに働いている男性がいます。定員の枠があれば男性が正規職員になって、女性は非正規のままというケースがみられます。男性の方が家族を養うからと。しかし今は3人に一人が離婚するといわれる時代です。家族を養う女性も多いのです。日本の貧困問題を考えると、非正規で働く女性たちが貧困になる状況があり心配です。最近は結構市区町村でも女性の職員が増えてきましたが、女性の管理職は少ないですね。非正規の女性職員の場合、低賃金のままで職場を長く継続することも難しく退職金もありませんから気の毒ですね。非正規等の状況にある人は、めげずに情報を集め正規職員になれる状況に挑戦されるといいですね。子連れで働いているとなかなか勉強する時間もないと思うんですが、資格を持つことも良いと思います。

※国連の「北京女性会議」について

1945年に採択された「国連憲章」では、第8条で、「男女の平等」が掲げられており、「国際婦人年」とされる1975年以前から、数多くの女性職員や女性の権利活動家などが、この条項の実現を目指し、世界各国の女性の代表や団体をを集め、「世界女性会議」を行ってきた。

第1回世界女性会議(1975年・メキシコシティ)メキシコ宣言が発表された。

第2回世界女性会議(1980年・コペンハーゲン)前年に採択された女子差別撤廃条約(CEDAW)が重要なマイルストーンであることに合意した。また特に教育、就労機会、適切な医療サービスの提供の3点における男女平等を目指すことにも合意が得られた。

第3回世界女性会議(1985年・ナイロビ)女性の平等の進展を図る分野として、憲法、法律、社会参加、政治参加、意志決定の5つが掲げられた。また人間活動の全ての分野に女性が参加する必要がある点を認識した。

第4回世界女性会議(1995年・北京)北京女性会議ともよばれている。1995年の9月4日~9月15日に開催され終了時には、北京宣言および行動綱領が採択された。当時アメリカ合衆国のファーストレディーだったヒラリー・クリントンが「女性の権利は人間の権利」という演説を行った。

——世界の女性の状況をたくさん見てこられてきたと思います。世界と比較して日本の問題点はどこにあるでしょうか。

日本は女性をなかなか管理職にしない傾向があります。日本社会は前例が重視され、規則がとて多すぎると感じますね。今海外からも日本に来て働く人が増えていますが、もっと柔軟に個人の能力を活かすようにしないと、日本は発展していかないと思います。保育所を職場で作ったり、父親の育児参加推進など、国や企業の働く人への支援はもっと必要ですね。

——私どもの協会は、家事・育児・介護をサポートする方々を紹介する事業者の協会で、起業した経営者のほとんどが看護師などの女性です。

それは素晴らしいことですね。女性が起業していれば安心して働ける環境が整えやすいですね。男性でも理解してくださる方がいますが、やはり割合からいうと少ないですから。

——最近では女性の事務職でリタイアした人が、事務職でまた働こうとされることがありますが、AI活用の浸透で、事務職の求人が減っています。時代に合わせてAIにはできない人の手や心のやさしさ

を活かしたケアの仕事に踏み出す人が増えるといいなと思いますがいかがでしょうか？

私もそう思います。ほんとうに人生100年時代でひとり暮らしの高齢者も増えていますから、

ケアの仕事のニーズは、ますます高まっていますね。家事・育児・介護を安心して頼める社会になれば、もっと活躍できる方も増えて日本も発展していくと思います。新しい時代に合わせた働き方を女性たちも考えていく必要がありますね。高齢になってもできる仕事なんですね？

——介護保険が始まって25年になり、ベテランの方は70歳代後半とか80歳代になっておられますが、元気な人は働き続けていらっしゃいます。看護師さんは90過ぎても健康であれば資格がものを言いますね。私どもの協会では、家政士という資格制度を持っていて、10年間筆記と実技の試験を行い現在1000人近い家政士が誕生しています。

そういう資格って必要だと思います。どなたにお願いしようかとなったときに、やっぱり資格がある方をお願いできると安心です。資格を持つ方がどんどん増えていくと高齢化社会の非常に大きな安心の基盤になりますね。私のように他の業界でずっと働き続けてきたものが、こういう検定試験を受けられるのでしょうか。

——家事・育児・介護のサポート技術の基本をだれでも身につけられる教科書があります。昨年社内検定から団体検定になり、政府も関心を持ってきていますので、将来は国家資格になっていくといいなと思っています。昨今は介護や看護の資格に加えてこの資格を取得する人も増えています。

長命時代になると、年金だけの収入では足りなくて貧困にもなりかねませんから、そういう技術を持つ

ていれば退職してからの安心に繋がり、女性にとっては心強いことだと思います。団体としてさらにその資格を広めていただくといいですね。看護師さんなどは夜勤がありますから高齢になると厳しいですよ。複数の資格を持つ家政婦(夫)さんが増えるとともに安心ですね。

ジェンダーギャップの調査も兼ねて ピースボードに乗ります

——4月からピースボートで3ヶ月半船に乗ろうと思われた動機について伺えますか。

国家公務員の時も国連職員であった時も、いろんな国で会議をして出張も多かったんですが、観光はできなかった。ピースボートは以前は若い人たちが多く乗っていたんですが、今は退職者がほとんどだそうです。私が行こうと思ったのは、世界のジェンダーギャップについての調査も兼ねてと思ったからです。

世界でいちばん男女格差が少ない国のアイスランドに行けるんです。アイスランドは大統領も女性です。残念ながら2日か1日だけの訪問になりましたが。

大阪で万博がありましたでしょ。7月に家族で行き、その時に北欧の国が女性デーというのを行い、北欧の国と日本の代表が発言する機会がありました。北欧の国の人たちとも仲良くなってとても勉強になりました。日本も総理大臣が女性になりましたが、ジェンダー平等への関心はまだまだ低いですね。

体と頭を鍛え 自分を活かす力を磨くこと

——長命の時代に向かって心がけておられることは、どんなことでしょうか？

1日1万歩とよく歩き、自転車にも乗っています。体を動かしそしてよく考えることですね。研究会にも積

極的に参加しています。そうすれば脳も退化しないと思います。自分の好きないろんなことに興味を持ち、自分のやれそうなことは、人任せにせず自ら行動していくことが大切ですね。

今の時代は、インターネットを活用して、世界中の情報を手に入れて調べることができますから、自分の視野をどんどん拡大していくことができます。世界から学べることはまだまだ沢山あります。日本の人々は内向きにならず、もっと世界に目を開いていくことが必要です。

世界の人々が、男女・国籍・人種などに関わらず大切にされ、活かされる平和な地球をめざして、ネットワークを創り、力を合わせて挑戦していきましょう。

(インタビュー／渋谷洋子 写真／渡邊英昭)



フランスZ世代が愛好する 日本語の新・人生哲学

日本に、ヨーロッパからの外国人が多く訪れるようになった。日本の精神文化にまで好意と敬意を抱き訪れる人達が増えてきている。しかも外国人旅行者のマナーが、改善されてきた。その背景を考えてみよう。



©Kenta Osaki

今、フランスでは、Ikigai (イキガイ) や Kaizen (カイゼン) のほか ZEN (ゼン)、Wabi-Sabi (ワビサビ) などのことばを、日常茶飯事さまざまな場面で、耳にするようになってきている。

■ フランスに浸透する日本語は ■ 刻々と変化してきている

私が移住した31年前には、フランス人が知っている日本語といえば、Fuji (フジ)、Tokyo (トキョー)、Judo (ジュードー)、Karate (カラテ)、Kimono (キモノ) くらいのものであった。近くのスキー場では Geisha (芸者)、Samurai (サムライ)、Harakiri (ハラキリ) などのことばがゲレンデに面白おかしくつけられていて、今のような好意や敬意は感じられなかった。

その後、到来した日本食ブームで、Sushi (スシ)、Tempura (テン普拉) などの料理名が浸透。そしてトヨタや日産、ソニーなど日本製品の愛用者も急増し、性能の良さから「日本＝良質＝信用できる国」イメージが広まった。さらに大きな変化を巻き起こしたのは、マンガだ。フランス語に訳さず「マンガ」のママで広がると、食べ物なども、それまでは Boule de riz (ライスボール) だったのが Onigiri (オニギリ) になり、Wasabi (ワサビ)、Matcha (マッチャ) と発音のママのローマ字表記が一般化した。

■ マンガブームが火をつけた ■ Z世代の訪日ブーム

Tatami (たたみ)、Futon (ふとん)、Kawaii (かわいい)、Tanosii (たのしい) など、あらゆる単語が日本語と意識されずに口にされるようになった。

そのマンガブームの初期ファンがZ世代&Y世代だ。かれらは社会人になると「円安だから」ではなく「絵だけで見ていた日本に行ってみたかったから」と一斉に訪日を始めたのだ。おにぎりやコンビニ、お寺

や温泉、畳や布団などを満喫した彼らが、次に魅了されたのが、マンガでは読み取れなかった「日本独特の空気や美意識」だったという。「お金で買えず、物として持ち帰れない。日本にいる間だけ包まれ体感できるものばかり」と、すでに9回日本に行った男性(33歳)も言う。「行くたびに自分もまねて、身につけたい熱意にかられる。それが他国での旅とは違う。真面目なのに甘く、時に緩くもあり、大阪などはすごく賑やか。でも耳をふさぎたくなる騒々しいやかましさと違う。静かでも冷たくはないし、なにより平和な安心感に満ちている。それは国ではなく、国民性が醸し出しているものに違いなく、だから見習おうと毎回思う。でもしばらくするとその意識も薄れ、抜け去ってしまうから、また行くしかない」。そういうマンガ育ちの若者たちが今「新・人生哲学」と愛好するのが「禅」「侘び寂び」「いきがい」「改善」など。彼らの解釈は私たち日本人の場合と少し違う。

■ 濁音の好きなフランス人が日本語から ■ 日本の精神文化を感じ取っている

フランス人はかすれ声や濁音を好む傾向が強い。ことばについても同様で Bonsai が発音で人気になり ZEN も濁音「ゼ」が耳にも口にも心地よいと好かれている。英語のコンビニエンスの意味など知らなくてもだれもが日本で気軽に口にする「コンビニ」と同様、ZEN も宗教や意味等ほぼ関係なく日常的に口にするようになった。また「冷静さ」を求めたり促す際にも短く「ZEN」というだけで伝わるので、犬の「お手」や「待て」の様に重宝がられ使われている。実際、私の小学校勤務中も、同僚が「ZEN」と静かに唱えようと子供たちの騒ぎが一瞬にして鎮まり、毎回ミラクルを感じている。フランスのZ世代が日本語から感じ取った「新・人生哲学」は、改めて日本を見直す機会になっている。

フランス在住レポーター：祐天寺りえ

7年度紹介業運営セミナーのメインテーマは、 「家政婦(夫)のための補償制度の積極的な活用」

一人暮らしの高齢者が増え、高齢化がますます進む日本社会において、家政婦(夫)の不足は、政府も関心を持つ大きな課題となっています。当協会の優れた補償制度をさらに働く人と社会全体に対して認知拡大を推進していくことが必要です。

(株)ケアフレンドモリタ家政婦紹介所 代表 奥村直樹

令和7年度の紹介業運営セミナーは、全国9ブロックで実施し、130人の参加がありました。中四国などでは、高知から岡山の会場に参加する必要があるなど、遠出を必要とするセミナーであるため、参加率が33%であったことは、高齢化が進んでいる状況の中では、まずまずの参加率であったと思っています。

ブロック	参加人数	ブロック	参加人数
北海道	5	東海	19
東北	15	近畿	15
関東	15	中四国	7
東京	35	九州	13
北陸	6	合計	130

今後に向かっては、コロナ前の参加率である4割を超える参加率を目指していきたいと考えています。

講師は、職場の現状を把握する 内部の教育研修委員が担当

各ブロックが開催地、開催日時・会場選びを行いました。講師については、外部講師に依頼することがありましたが、私たちの業界の仕組みや状況を理解いただくのに時間がかかる印象がありましたので、令和5年から自ら家政婦紹介業を営む教育研修委員が講師を担当しております。

家政婦(夫)さんの不安の無い 就業環境を創るために

今回のセミナーのメインテーマは、「家政婦(夫)

の福祉向上のための制度の積極的な活用」で、労働災害における働く人のリスク(休業・傷害)の軽減を目的としています。労災保険特別加入制度は、当初介護業務のみを対象としていましたが、介護業務に加え、家事業務にまで補償の対象を拡げており、働く人にとってのメリットが大きいからです。これは当協会の戸荻会長から、厚生労働省に対してこの必要性について働きかけを行っていただき、実現したものです。一般的に、家政婦(夫)の仕事に新たに参入する上では、個人家庭宅が職場であることから、不安を持ちためらうケースが少なくありません。一人暮らしの高齢者が増加している日本の「人生100年時代」を安心して暮らせる時代にする上でも、働く人のリスク軽減は重要なポイントです。今後に向かって家政婦(夫)という仕事に就く人を増やしていくためにもこの保険・補償制度は、社会への認知拡大(特に潜在求職者)とともに、加入者を増やしていくことが必要です。

今回は、加入を推進するため、賠償責任保険・傷害補償制度・労災保険特別加入制度について、詳しく解り易く説明して、制度の活用推進が進むようにいたしました。

労働局の「定期指導」に、 各事業所はどう対応すべきか?

もうひとつのテーマとしたのは、「労働局の定期指



北海道会場

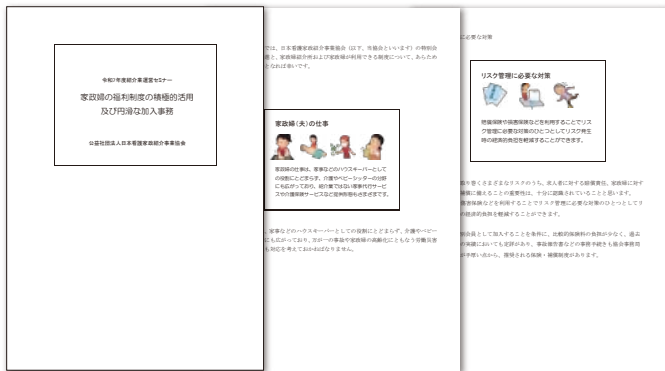


東北会場

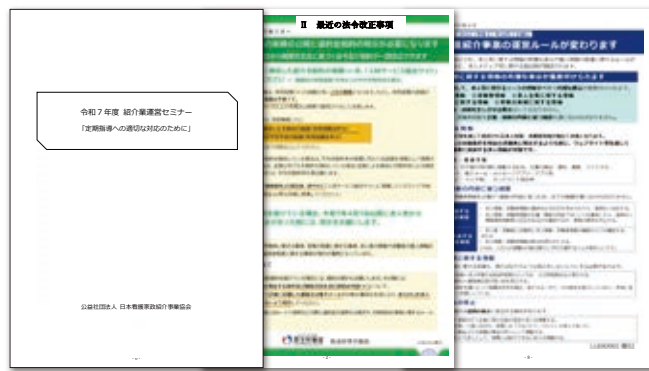


関東会場

▼家政婦の福利制度の積極的活用及び円滑な加入事務(研修資料)



▼定期指導への適切な対応のために(研修資料)



「導への適切な対応」です。当協会の事務局に対して、どう対応すべきかという質問が多く寄せられていたからです。

そこで会員事業所が労働局の指導に適切に対応し、信頼される事業活動が行なえるようにすることを目的にこのテーマを取り上げました。

労働局の定期指導を受ける前に事前の知識拡大と準備が必要だと思われたからです。

セミナーに参加頂いた方々の98%が参考になったとアンケートに回答

参加者のアンケートでは、「このセミナーを受講して参考になった」と「どちらかといえば参考になった」という声をあわせると98%という結果で、ほとんどの参加者に好評であったことが解りました。「保険・補償制度を一覧表にして解説されたので、とても解り易かった」等の喜びの声が寄せられています。

参加できなかった方は当日の資料をホームページに掲載

今回のセミナーで使用した資料は、参加することができなかった方々のために、当協会のホームページに掲載されていますのでご活用ください。

このセミナーが参加された方々にとってどう役に立ったかなどの具体的な事例を、教育研修委員会にお寄せいただければ幸いです。教育研修委員会でご共有し、今後さらに充実したセミナーを計画し、実施していくための参考とさせていただきます。

▼研修カリキュラム

開催挨拶等
① 家政婦(夫)の福祉の向上のための制度の積極的活用及び適正、円滑な加入事務
② 定期指導への適切な対応のために
講師:教育研修委員
質疑応答
厚生労働省委託事業「民間人材サービス活用検討事業」
質疑応答・個別相談
アンケート記入・閉会挨拶等



令和7年度 寄付者の皆様 (50音順)

協会の事業運営のために、以下の皆様から寄付金を賜りました。
皆様からのご芳志は、協会活動の充実、強化に活用させていただきます。
厚くお礼を申し上げます。

寄付者	
秋山 公子 様	吹田看護師家政婦ワーク紹介所
飯田 信吾 様	(株)ライフケアサービスセンター
飯塚美代子 様	(株)ケアワーク弥生
緒方 一憲 様	富士田看護婦家政婦紹介所
奥村 直樹 様	(株)ケアフレンドモリタ家政婦紹介所
古賀 道 様	(株)アーチ福祉&サービス人材センター
近 美津枝 様	(株)しろいし看護師家政婦紹介所
酒井 ひろみ 様	(有)関看護婦家政婦紹介所
坂口友紀子 様	布施看護婦家政婦紹介所
佐野 良子 様	(有)かやの里
塩谷 倫子 様	(有)トータルサービス御殿場
渋谷 洋子 様	(有)加島看護婦家政婦紹介所

寄付者	
清水 彰子 様	信愛看護婦家政婦紹介所
高橋恵美子 様	(有)ヒューマン・ケア・ステーションみえ
塚原 聰 様	宮下家政婦紹介所
土田有紀子 様	(株)都島ナース
堤 優子 様	堤看護婦家政婦紹介所
樋田 栄子 様	(有)水戸介護家事サービス水戸看護婦家政婦紹介所
戸苺 利和 様	会長
徳野 純子 様	西神看護師家政婦紹介所
永岡 好子 様	(有)市川家政婦紹介所
眞下 範子 様	(有)舞鶴共同家政婦紹介所
松本 真二 様	(株)ポノ
茂木 芳枝 様	モテギ家政婦紹介所

会員の皆様方には、協会の効果的かつ持続的な事業運営のため、ご寄付をお願い申し上げます。
公益社団法人である当協会への寄付金には、税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)と法人税(法人)の控除を受けることができます。

皆様の温かいご支援をお待ち申し上げます。

●当協会への寄付の詳細につきましては、協会ホームページ(<http://kanka.or.jp/kifu>)をご覧ください。



KEY WORD

気になる言葉 「ヘルスリテラシー: Health literacy」

●ヘルスリテラシーとは、健康や医療に関する情報を自らアクセスして入手し、理解・評価・活用して、自分や家族の健康な生活に役立てていく情報活用能力のことです。

●誤った情報に惑わされず、医療の判断ミスや生活習慣の失敗を減らし、健康寿命を延ばしていくことにつながります。

●ヘルスリテラシーは、個人の健康維持と社会全体の健康寿命の延伸に欠かせない能力として、厚生労働省も重視しています。

●情報収集力を持ち、広い視野で自分の健康を維持発展させていく能力を一人一人が持つ時代にしていく必要があるのです。





家政婦(夫)獲得のため地元のイベントに参加

働きたい母親に対して就労等の相談窓口を設け活動している NPO 法人の団体が地域にあります。そこが開催する「お仕事フェスタ」で企業ブースとして 2024 年 10 月から 4 回出展しました。来場者の年齢は 30 代～40 代。100 人以上が来場します。当社ブースには毎回 6 人程立ち寄ってくれました。その中で面接に来てくれるのは毎回 1 人。更に就労まで至るのは 4 回やって 2 人 (31 歳、67 歳) でした。来場者の反応は家政婦(夫)という仕事があることをほぼ知らない世代でした、知っている人は TV ドラマのようなイメージを持っていました。実際の仕事内容を説明するのによい機会となり、家政婦(夫)の働き方に興味を持ってくれる人もいました。また事業所のパンフレットを来場者に配布してくれるので直接話せなかった人にも紹介所の情報を渡すことができました。若手獲得のためにこのようなアプローチもありかなと考えます。

(投稿 匿名の方より)

★ 皆様からの投稿をお待ちしています ★

お便りと今号のご感想・要望など看家協会事務局 (E-mail: post@kanka.or.jp) まで、メールでお寄せください。また郵送の場合は協会 (下記) までお送りください。

〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2

公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会 はなえみ投稿係

編纂委員会 (50 音順、◎印委員長)

古賀道、渋谷洋子、◎清水保人、高橋和子、宮本和明、茂木芳枝、渡邊嘉子 (編集顧問)

編集後記

今回の巻頭インタビューでは、国連ウイメン日本協会理事長の橋本ヒロ子さんに、世界と日本における女性活躍の取り組みや、これからの女性に期待することについて、ご自身の歩んでこられた歴史を振り返りながらお話しいただきました。

橋本さんは「両親の協力があったからこそ」と振り返られ、子育てをしながら海外留学を実現されました。常に学びの姿勢を持ち続け、新しいことに挑戦されてきた姿勢には深い感銘を受けます。女性の活躍を牽引してこられたその生き方には、共感と尊敬の念が尽きません。

また、直近では中高一貫教育を行う東京の十文字学園で校長を務められ、女子教育にも大きく貢献されたと伺いました。

女性総理大臣が誕生した今の日本社会は、こうした先人たちの歩みの積み重ねによって形づくられてきたのだと改めて感じています。今回、このようなお話を伺う貴重な機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。(編纂委員・渋谷洋子)

季節の変わり目は、エアコンに頼り過ぎず 着るものやスカーフで調節しよう!

- 季節の変わり目は、着るものの工夫が必要ね。
- このところ日によって暑くなったり、肌寒くなったり、昼と夜の温度差が大きかったりで、何を着ればいいのか迷うことが多いね。
- 私はカーディガンや薄手の上着やスカーフをいつも持ち歩くようにしているわ。
- 地球の温暖化はますます進んでいるような気がする。今年も夏の暑さが心配。
- エアコンも10年くらいたつと故障し始める。修理を頼んでも部品がもうないとかで、結局買い替えることになったりね。
- エアコンに冷蔵庫に洗濯機にテレビに、給湯器など10年ごとに買い替えの大波がやってくる。
- 長生きすると何度も買い換えが必要!
- 高齢の人たちは住まいのメンテナンスや電化製品の買い替えに備えた資金計画が必要だね。
- 電気に頼りすぎない生活も考えていく必要がありそう…。



看家広報 はなえみ168号 Hanaemi Bimonthly 168
2026年5月25日発行

発行 公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会
〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2

TEL 03-3353-4641

FAX 03-3353-4326

URL <https://kanka.or.jp/>

E-mail post@kanka.or.jp

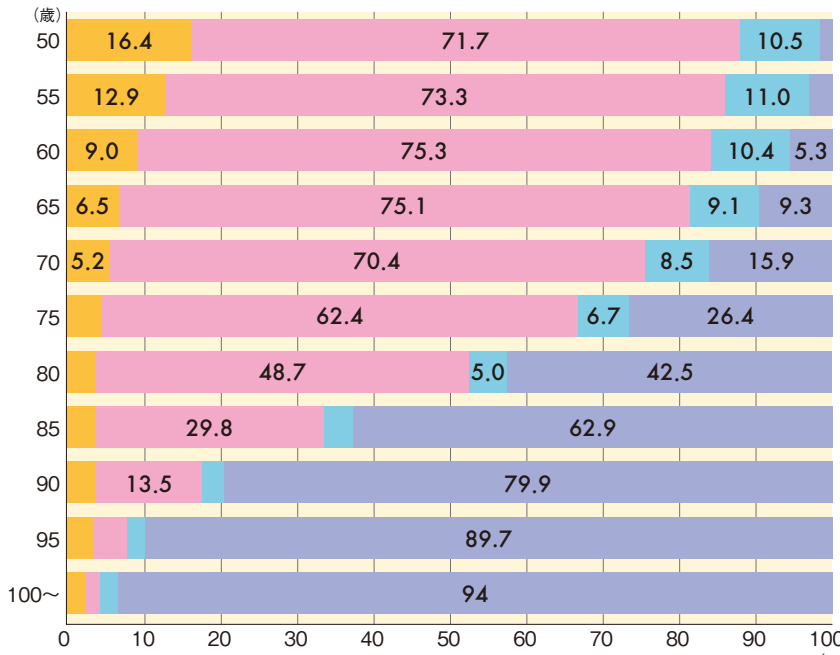


制作会社: 株式会社ヒューマン・コミュニケーション研究所
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-7-14ライオンズ原宿402
研究室: 〒104-0045 東京都中央区築地2-15-10-1602
TEL: 03-3545-8038
E-mail: yoshiko.w@human-c-labo.net

女性は80歳で2人に1人がシングル。 90歳で9割が「おひとり様」に。経済的備えが必要!

●長命時代に生きる女性は、80歳になると配偶者のいない人が51.3%で半分以上の人がシングル。90歳になると9割近くがおひとり様になるので、女性は将来に向かってしっかりとした自立心を持って経済的な備えをしていく必要がある。●しかし現状では、将来に向かって学び直し等、自己啓発に取り組む女性は30.7%と男性の41.9%に比べて低く、将来ひとりになることを考えて経済的自立のための準備が必要なことに気づいていない人が多い。●女性は、「45～59歳」から「65歳以上」になると専門職(教員、保育士等)や事務職が減り、「65歳以上」で増える職業は、「サービス職業従事者」で、ミドル時代から将来を考え新たな資格取得など能力拡大に取り組まないと経済的に困窮する女性が増加すると考えられる。●27年秋から家政士資格が国家資格になることの認知拡大を推進していきたい。

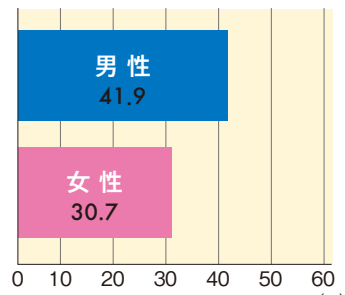
◆年齢階級ごとにみた女性の配偶関係の構成割合



資料:総務省「令和2年国勢調査」

■ 未婚 ■ 有配偶 ■ 離別 ■ 死別

◆男女別にみた自己啓発に取り組んだ人の割合



資料:厚生労働省「能力開発基本調査」令和6年度

◆職業別就業者率 (%)

性別	管理的職業従事者	専門的・技術的職業従事者	事務従事者	販売従事者	サービス職業従事者	保安職業従事者	農林漁業従事者	生産工程従事者	輸送・機械運転従事者	建設・採掘従事者	運搬・清掃・包装など従事者	分類不能の職業	
男性	45～59歳	3.4	17.3	18.5	12.4	5.1	2.5	2.1	17.0	6.7	7.8	6.4	1.3
男性	65歳以上	6.1	12.3	8.9	8.7	8.7	3.9	11.3	11.2	7.8	8.0	11.0	2.0
女性	45～59歳	0.7	19.3	32.6	10.9	16.9	0.3	1.1	8.9	0.4	0.3	7.4	1.3
女性	65歳以上	1.8	10.5	15.9	10.7	25.6	0.3	9.0	8.4	0.3	0.3	15.3	2.6

資料:総務省「令和2年国勢調査」

□ 男女各年齢階層の中で1位の数値 □ 同じく2位の数値

